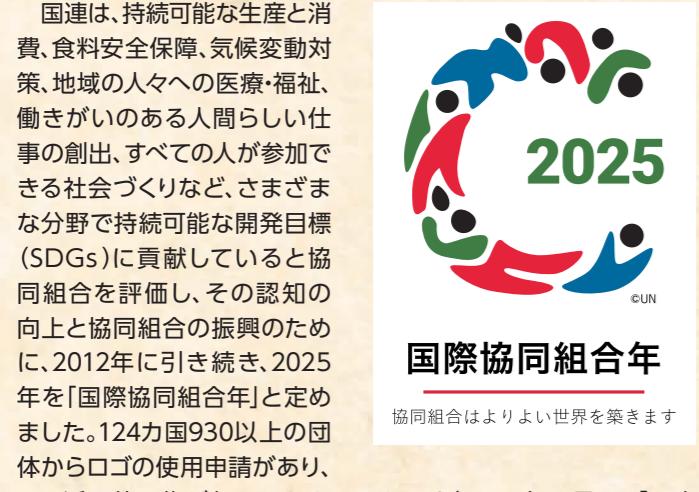


平和なくして生協なし を体現・実感した2025年!

01 国際協同組合年



国連は、持続可能な生産と消費、食料安全保障、気候変動対策、地域の人々への医療・福祉、働きがいのある人間らしい仕事の創出、すべての人が参加できる社会づくりなど、さまざまな分野で持続可能な開発目標(SDGs)に貢献していると協同組合を評価し、その認知の向上と協同組合の振興のために、2012年に引き続き、2025年を「国際協同組合年」と定めました。124カ国930以上の団体からロゴの使用申請があり、100近く催し物が行われたとのことです(2025年11月6日「日本農業新聞」)。

東都生協は、他の生協や農協と共に、7月から9月にかけて4つの国際協同組合年企画に参画。協同組合としてのアイデンティティを改めて学習するとともに、社会に向けて協同組合の存在意義を大いにアピールしました。



7月5日、東京国際フォーラムにて2025国際協同組合年全国実行委員会主催「協同組合フェスティバル」に出演しました。



8月9日、JA東京中央と「再発見!協同組合フェスタ」を共催。

02 第21回 平和のつどい



7月12日、北沢タウンホール(下北沢)にて開催。スローガンを「世界に届け、平和の祈り」とし、ステージでは、被爆・戦後80年として、一般社団法人東友会代表理事・家島昌志氏からノーベル平和賞授賞式報告や、東友会主任相談員・村田未知子氏から東友会と東都生協とのつながりの歴史などのお話をパネルディスカッション方式で行った他、膝掛けの贈呈、紙芝居上映、ピースアクションinオキナワ参加者からの報告など、改めて平和について考える機会となりました。

会場ロビーでは、「平和の願いの樹」メッセージカードの記入と展示、原爆と人間パネル展示、平和文集閲覧、横断幕展示、折り鶴展示と作成コーナー、戦争ほうき配付と紹介パネルの展示などを行いました。



ロビーでは参加者が折り鶴を折っていました。

03 子ども平和新聞

戦後80年、後世に平和のメッセージを継承するため、日本生協連が企画した「子ども平和新聞プロジェクト」に東都生協も参加しました。

小学4・5年生の子ども記者5人が、新聞記者から取材方法、新聞原稿の書き方を学び、平和のつどいでの被爆者の方への取材などを通じ、みんなで「核兵器廃絶新聞」を作りました。



04 日本の水田を 守ろう!

8月22日、新宿の東京都農業会館にて、「日本の水田を守ろう!みんなdeミーティング」を開催しました。オンライン中継もあり、全国から生産者、卸業者、農協などが参加し、米不足の背景や米作りの現状などの報告、生協組合員(=消費者)として何ができるか考える機会としました。10月から11月にかけては、各地域委員会で、8月のミーティングの動画を見ながらお米について考える企画を開催しました(5ページも参照ください)。



会場の様子

フロアからの発言もありました。

05 今年も開催! とうとフェス

「産地直結を体験!とうとフェス」を10月11日(土)に足立・杉並・町田の各センターで同時開催し、3会場で産地・メーカーなど77団体206人と来場者673人がにぎやかに交流しました。組合員や近隣住民の皆さんとたくさんの来場がありました。



各ブースでは、産地・メーカー、きょうされん(7ページ参照)所属作業所の商品販売や試食などを通じて交流を楽しみました。また、EVトラック(7ページ参照)の体験、バンドやエイサーなどその会場でしか体験できないオリジナル企画や、3会場共通のスタンプラリーなども行われ、子どもたちの笑顔もあふれていました。

[町田センター]
須黒食品の移動販売車が出張。



[足立センター] 参加メンバー全員で記念撮影!